

事務事業評価表

○基礎情報

課名		警防救命課	作成責任者	常勤職員		常勤職員以外			総従事者	時間外勤務時間	
施策目標	38	消防力を充実し、災害活動体制を強化する	森田 学	管理職	左記以外	再任用短時間	臨時職員	非常勤嘱託職員	総人工	総時間	一人あたり月平均
				2 人	8 人	1 人	0 人	0 人	10.63 人	875 時間	9.1 時間

1 施策指標と実績(Do)

施策指標名	4次実施計画の 現状値	目標値 (R2年度)	実績値		
			H29年度	H30年度	R元年度
消防団員充足率	94.0%	100.0%	95.0%	96.0%	94.8%
心原性(主に心臓が原因)で目撃のある心肺停止 傷病者を対象にした救命率(1か月生存率)	13.1%	16.0%	6.9%	7.1%	15.0%
0	0.0%	0			

(施策のねらい)

1	消防活動環境の調査・整備
2	消防団との連携強化
3	救急車利用の適正化
4	大規模災害時の地域防災力の強化
5	0
6	0

(評価の見方) S 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果があがった A 事業の指標は達成できなかったが、成果はあがった B 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果は今後見込める
C 事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込める D 事業の指標を概ね達成したが、成果は見込めない E 事業の指標を達成できず、成果も見込めない
Z 未着手事業(計画していたが未実施に終わった) 実績なし 事業実施の体制は整えていたが、実績がなかった(実施計画期間中で当該年度は実施予定のないものを含む)

2 政策的事業の実績(令和元年度)

事務事業の取組結果と成果(効果) (Plan / Do)													Check		Action	
No.	事務事業 (第4次実施計画)	施策 者数	従事 者数	会計 区分	H30予算(円) H30決算(円)	R元予算(円) R元決算(円)	何・誰に対して (対象)	どう働きかけた結果 (手段・方法)	どうなったか(生ま れた成果・効果)	事務事業の指標	R元目標値	R元実績値	評価	取組 時間	事務 改善	休・ 廃止
1	救急ワークステーションの設置(計画)	1	0.23	一般	0 0	0 0	市立病院と病院建設状況及び運用開始は来年10月以降を予定していることを確認した。運用計画素案策定のため、具体的な運用方法について部内調整会議を実施した。		救急ワークステーションの設置	運用計画素案の策定	進捗状況確認の連絡調整会議実施(1回) 運用方法の部内調整会議の実施(1回)	A	変動なし			
2	消防ポンプ自動車等整備事業	1	0.31	一般	28,123,000 26,906,190	27,888,000 27,173,689	老朽化した救急車両及び水上バイクトレーラーを更新するとともに、翌年度以降に整備予定である車両の仕様を決定した。		車両の更新整備台数	・指揮車1台・高規格救急自動車1台・公用オートバイ2台	高規格救急車1台・水上バイクトレーラー1台	A	変動なし			
3	消防水利整備事業	1	1.20	一般	0 0	0 0	国の示す消防水利の基準に対して現況の充足率を調査、分析した。本事業と維持管理事業を統合し水利再編事業とする次期総合計画への方向性を決めることができた。		消防水利現況分析の回数	1回	1回	S	変動なし			
4	移動式ホース格納箱等訓練に関する事業	4	0.61	一般	180,000 180,000	251,000 250,800	震災時に発生する火災の被害軽減を図るため、市民に対して移動式ホース格納箱取扱訓練の指導を実施した。消防団員と実施することで地域防災力の向上を図ることができた。		訓練実施回数	60回	45回 (参加市民1,861人、消防団員123人)	A	減少			

5	消防団車両等整備事業	1	0.36	一般	0	0	消防力強化及び消防団活動の充実を目的として、消防団車両の整備にあたり、各地域特性に合わせた仕様書を作成するとともに、整備計画の修正を行った。	車両の更新整備台数	小型動力ポンプ積載車1台	0台	Z	変動なし		
6	消防団活動施設整備事業	1	0.39	一般	0	0	消防団活動施設の長寿命化の推進を目的として、保全工事は未着手であったが、建物の点検を行い修繕の優先順位を決定した。	予防保全工事件数	1件	0件	Z	変動なし		
7	消防団員訓練事業	4	0.69	一般	2,753,000	946,000	消防団員の活動技術向上のための消防操法訓練を実施した。また、消防操法大会に出場し、消防活動に対する士気高揚が図られた。	操法訓練・研修実施回数	38回	31回	S	変動なし		
					2,620,932	880,433								
8	安心カプセル・安心カード推進事業	1	0.15	一般	224,000	214,000	令和元年度は1,620セット配布した。今後も高齢者の救急搬送が増加すると予想されるため、事業を継続する。	安心カプセル・安心カード配布セット数	1,920セット	1,620セット配布	S	変動なし		
					221,536	207,110								
合計					R元予算(円)	29,299,000								
					R元決算(円)	28,512,032								

3 実施計画事業(政策的事業(政策的事業のない課かい一般管理事務等))の総括評価

人工・事務事業費・事務事業指標達成度の結果にかかる分析(Check) / 今後の展望(Action)														
<p>警防救命課の令和元年度の事務事業数は28事業あり、うち政策的事業は8事業である。政策的事業の評価結果は、「S」3事業、「A」3事業、「Z」2事業となり、2事業を除き成果を出すことができた、もしくは今後成果が見込めるものとなった。</p> <p>消防水利整備事業では、消防水利の現況が国の基準に充足しているかを調査・分析をし、100%であった結果を踏まえ、今後整備していく消防水利について具体的な方針を定めることができ、次期総合計画の策定に向けた意義あるものとなった。移動式ホース格納箱等訓練に関する事業及び消防団員訓練事業においては、地域自治会で主体的に訓練指導をするほか、火災を想定した訓練を実施するなど消防団を中核とした地域防災力の向上を図ることができた。特に、女性消防団員による訓練指導の機会が増えるとともに女性操法大会に出場するなど、女性消防団が担う消防団広報の大きな役割を果たすことができた。</p> <p>また、高規格救急自動車1台及び高度救命処置用資機材を整備し、安心カプセル及び安心カードの配布を継続的行ったことで高齢化社会のニーズに対応すべく救急体制のさらなる充実を図ることができた。</p> <p>「Z」評価とした消防団活動施設整備事業及び消防団車両整備事業については、事業着手に向けて計画修正に取り組んだ。</p> <p>職員の時間外勤務は、総時間875時間、1人当たりの月平均9.1時間であり、前年度と比較して総時間は412時間、1人当たりの月平均は6.2時間ともに減少することができた。平成30年度の消防団操法大会に引き続き、令和元年度は全国女性操法大会に出場し、訓練時間が例年と比較し大幅に増えているにもかかわらず、30%以上の削減を実現できた。その要因は、全課員が会議や打ち合わせの時間を徹底的に削減する意識を持てたことや、担当者間における業務の平準化を図ったことによる成果であると考ええる。</p>														

4 Actionにチェックの入った今年度「事務改善」を行う事業

No.	事務事業(事業がない場合は－)	事務改善の内容
－	－	－

5 Actionにチェックの入った今年度「休・廃止」を検討する事業

No.	事務事業(検討事業がない場合は－)	休・廃止検討の理由(1事業も検討できない場合はその理由を記載)
－	－	警防救命課の事務事業は、複雑多様化する災害や高まる救急需要に対して、消防救急活動環境を保持する事業であることから、休・廃止の検討が困難と判断する。